

Open SDV Initiativeの紹介

名古屋大学 情報学研究科NCES 高田 広章
同 クレスコSDV研究室 橋本 佳幸

オープンSDV（造語）とは？

- ▶ **SDV（Software Defined Vehicle）とは**
ソフトウェアのアップデートにより価値が継続的に進化する自動車。
- ▶ **オープンSDV（造語）とは？**
サードパーティが開発したソフトウェア(アプリ)をインストールすることで、機能を拡張/変更することができる自動車。

オープンSDVのインパクト

- ▶ オープンSDVによる**モビリティイノベーションの加速**
 - 自動車はサードパーティのサービスを載せる基盤(プラットフォーム)となる。スマホのように。
 - APIを標準化することで、特定の車種や自動車OEMを限定することなくサービスを提供できる。
- ⇒ 自動車OEMのみならず、様々なサービスプロバイダが新しい価値を生み出せる可能性(API・・・Application Programming Interface)

経済産業省 モビリティDX戦略

- ▶ **急速に進む自動車のデジタル化**
 - デジタル化は日本のものづくり産業にとって鬼門。
 - 競争力を保ちながら付加価値を産み出す原動力がDX。
- ▶ **新興OEMの急速な進歩**
 - テスラ：革新的なE/Eアーキテクチャ、OTAの活用。
 - 中国OEM (BYDなど)：新しいコンセプトと高い完成度。速いソフトウェア開発。

Open SDV Initiativeについて

- ▶ 名古屋大学が、産業界に呼びかけて開始した**ビークルAPIを策定する活動**。約30社が参加。
- ＜活動の方針・計画＞
 - 自動車業界外のアプリ開発者(=サービス提供者)の意見とアイデアを結集。
 - AD/ADASを含むあらゆるドメインのAPI策定に取り組む。
 - 実車やシミュレータによるPoCにより有効性を評価。
 - SDV人材の育成にも取り組む。

＜これまでの経緯と今後の目標＞

2024年6月：参加企業の募集を開始

2024年10月：本格的な活動を開始

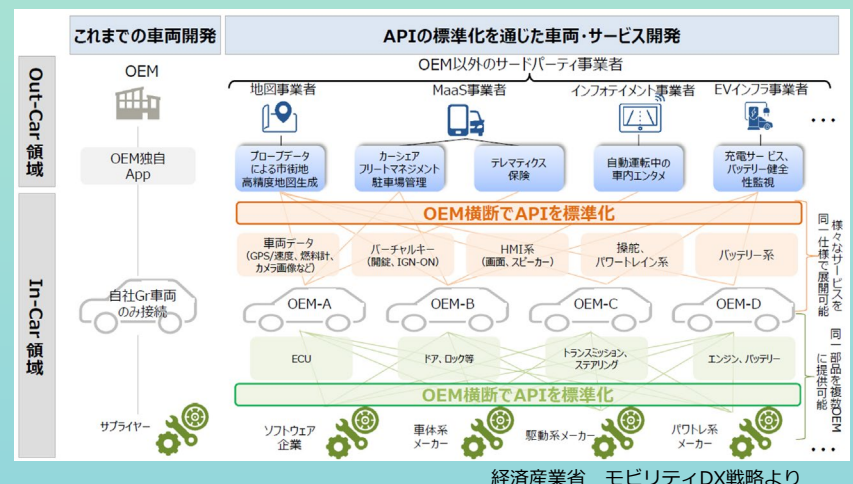
2025年3月(目標)：ビークルAPI仕様の第1版を公開

<https://www.nces.i.nagoya-u.ac.jp/osdvi/>
貢献いただける企業の参加をお待ちしています



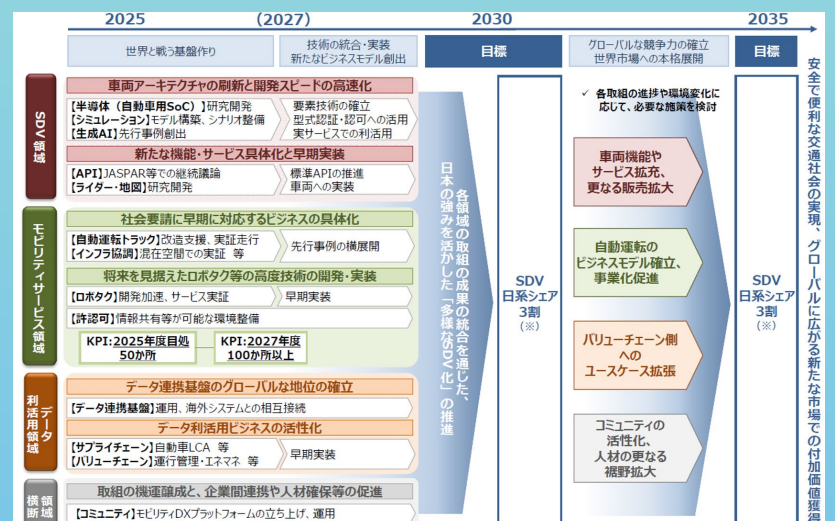
SDVの発展段階とオープンSDV

- ▶ **ステップ0：OTAの技術的なしくみ・運用プロセス構築**
⇒ (IVI以外のECUに対しても) OTAを安定的に実施できるしくみ構築
- ▶ **ステップ1：SDVによる継続的な価値創出**
OTAにより自動車の振舞い/機能を継続的に更新。
⇒ 継続的な収益確保のしくみ構築
- ▶ **ステップ2：オープンSDV**
サードパーティ（自動車メーカーやその委託先以外の組織や個人）が開発したソフトウェア（アプリケーション）を車両にインストールすることができる。
⇒ サードパーティが新たな価値を提供できるしくみ



モビリティDX戦略 取組目標

SDVのグローバル販売台数における「日経シェア3割」



想定するシステム階層

